## Ueber Xeroderma Pigmentosum

メタデータ	言語: jpn
	出版者:
	公開日: 2017-10-04
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者:
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38423

好生館醫事研究會雜誌第十五卷第二號

Deut. med. Wochenschrift 1892 P. 865, 995, 1043.

Wochenschrift 1893 P.

Mering, Lehrbuch der inneren Medizin 1907 

色素性乾皮症ニ就テ

Ueber Xeroderma Pigmentosum

諸君、余ハ去ル五月東京醫科大學皮膚科敎室ヲ去リ當地天章堂醫院ニ來リ皮膚科ヲ開設シテ日尙淺キニモ

ズ本邦ハ勿論西洋ニ於ラモ稀有ノ疾病トシテ報告少ナキ色素性乾皮症患者ヲ實驗セシヲ以テ空シク之ヲ公ニ

特 别 會 員 齋 藤 義 雄 (吳)

カトハラ

セザル

色素性乾皮症ハ諸君モ御承知ノ通リ一八七〇年 Kaposi 氏ノ始メテ記載シタル稀有ノ疾病ニシテ雀斑樣或ハ夏日斑 シテ菲才ヲ顧ミス今日此席上ニ於ラ之ヲ報告スルヲ得ルハ余ノ光榮トス ル所ナ y

白色ノ瘢痕樣斑點及皮膚萎縮等ガ本病ノ主徴候デァッテ早晩癌腫或ハ肉腫ノ如キ惡性

而シテ上記ノ如キ症狀ガヒニ初年(一歳或ハ二歳) 一二微候ヲ現ハシ進行性ノ性質ヲ有ツテ居ラ年ト共ニ ヨリ發生シ初期ニ ア 漸 ッ 々蔓延シテ テ 顏 面

終ニ殊ンド全身ノ皮膚面ニ來ルコガアル、ソレノミナラズ患者ハ多クハ惡性腫瘍ノ爲メニ不良ノ轉歸ヲトル

ノデア

及手足等ノ如キ外部ニ露出シ

A

n

部分ニ先ヅ其

腫瘍ヲ發生スル皮膚病デアル、

樣ノ色素斑、毛細管ノ擴張、

**斯道ノ為メ不忠實カト思ヒマ** 

ŕ

族

母ハ七十一歳ニシテ老衰死、

健存ス、

結核、

**徽**毒、

皮膚疾患竝ニ惡性腫瘍等ノ遺傳ノ黴スベキモノナシ、

當人ハ背テ重患ニ罹り

シコナ

外二第一人天然痘ニテ天死、

妹三人不明ノ疾患ニテ各々天死、

小

供二人

父ハ七十六歳尚健存ス同胞四人健存、

w m Æ ⇉ 惡 性腫 瘍 八己二 幼年期ニ於テ發生 ス w 7 特例 ァ w ノデ ァ jν • Mi シ ラ本病 ノ初期ニ 於テハ 何等 自覺的

障

碍

力

殆

1.

無

1

ŀ

言

フ

テ

良

レイ位デ

ァ

--係 シ ヲ 本 為 病 稱 ア jν メ ノ原因ニ ラ皮膚 或 コナ ŋ カ 即 付テハ ポ 早期 同胞數名本病ニ罹リシ例ハ少ナカラズ亦直接遺傳ノ關係ヲ證明ス ジ 1 一十分ニ 氏病 老衰 ŀ Eine 稱 知 ラレ ス jν Senilitas praecox der /位デア テア ラヌ jv V ガ太陽光線ト 余ガ實験セ Haut. 密接 シ 患者ハ年齢四十三歳 ナ ノ關係アル ソト 説テ居ル、 如ク 説クモ 尙本病 ノ男子 jν コアリ ノアリ、 ハ 力 吳市ノ人、 꺄. Kaposi 氏八本病 注目スベ ジ ー氏ガ始メテ詳 農、 キ 古土井某 ۸ M ノ本態 族 述 的 關 セ

(本病) 認 上 益 一ノ狀態 メ殊 々濃厚ノ度ラ 歷 顏 確 ハ殆ンド 面 ŀ 記 頭部、 加へタリ尚暗褐色ノ小斑ト 臆 - 全身 t 4) 手足等ノ露出セル w ノ皮膚ニ æ 患者二歲 二來リ僅 ノ終 = 部分 ツ質 餘ス處手掌ト 同時ニ黑痣ノ如キ大小數多ノ黑色ノ小斑點ヲ散點シ十五六歲頃ニ 3 著シ リ全身ノ皮膚一 カリ 足蹶 キ 1 ノミ 樣 年齡 ŀ = ナ 赤 V 增加ト スミヲ呈 ŋ 併ナ ガラ何等ノ ŀ シ 所 モ = R 右ノ = 暗褐色粟粒大 自覺障碍ナ 斑點増加シ皮膚 力 ノ色素斑 ŋ ケ ノ赤ミ v ۲ 嫼 其 以 チ

患者二十三歳ノ時左下眼瞼部 注意ヲ受ケザ 'n シ ト云フ敷年來屢手背及前膊 = 小指頭大ノ硬キ腫瘍發生シ某醫ニ診ラ乞ヒ截除 ノ下端ニ 罌粟粒大或ハ小豆大ノ疣贅様 t y 併シ皮膚 , 屯 ノ散點狀ニ交モ ノ異常ニ 就テ 何等 發

當時

=

醫治ヲ乞ヒシ

7

ナ

本年三月初旬頃ヨリ 左眼球結膜ノ內皆部ニ翼狀發片チ發生シ為メ ニ吾が天章堂際院眼科部ニ去ル五月十日始メテ診療チ乞ヒシ患者ニ偶然ニ 此 皮膚ノ

生シ

何

詩

ŀ

モ

ナ

"

自

然

ニ消散シ

跡

Ė

僅ニ

瘢痕樣

小部

面ヲ

一残シ

終二

現狀ニ

至レ

ij

ij

3

1

,

痒

Ż

如

j

ヺ

y

\*

=

肩

胛

部

於

ラ

著明

ナ

IJ

其斑

點

大

サ

ハ

粟粒大乃至

工罌粟粒·

大ト

スヽ

亦是等

部

分ニ

少數

赤色

小

斑

ŀ

純

黑色

大

化ヲ發見シ ダ n æ ノト ż 翼狀贅片 ハ眼科主任天野氏 ヘノ手術 1) テ 約一 週間 ニテ治療セ

現症 テ 殆 ン F 全身ノ 格榮養中等 皮膚 ナ ा v 褐色ノ雀 ŧ 見 五十歲: 斑樣 位 ノ 斑點無數 ノ外觀ヲ ・呈シ の二散點 全身ノ 屯 y 皮膚 殊 = 顏 般二 面 手背、 黑褐赤色、 兩 前 特二 膊 露出部ニ 兩 下脚、 於 胸 部 テ濃度强 項部、 ŋ 竝 'n

斑 小 點ヲ 數 多 認メ 7 何等自 玐 タ 黑 リ、 ア リ 覺障 皮膚 尙 顏 碍 稍 面及 光澤ヲ 訴 前 胸 ザ 失 部 ۲ = 僅 於 テ = 糠 ハ 毛細管 粃 樣 7 表皮剝 ラ擴張 脫 ヲ 明 7 ŋ = 透見 テ乾 3 燥シ皮膚萎縮 且 ッ 著明ナ ラ 、狀態ヲ y" w ŧ 示 僅 セ = 白 y 併 色 シ 瘢 ナ 痕 ガ ラ 瘙

然 , 其 自 他 然消 本 患 退セ 者 1 左右 シ 痕跡 手 背二 ナラ 米粒 ン 何 尙 旣 v 大 往 部分ヲ 症 疣贅多數 = かがが述 見 w = 散點 ŧ ~ 癌 シ 腫 如ク シ 亦小ナ 或 左眼 ۸۰ 肉腫 內皆部 N 無數 如 \* 惡性腫 瘢 翼狀贅片ア 海樣 瘍 班 點 存 ŋ 7 在 見 ナ N 是恐 認メズ亦何等 ラ 7 曾 ァ 發 自覺的 生 セ シ

疣

贅

チ 訴 而 ザ テ本患者ノ外皮 n 所 チ 以テ 見 w ŧ 胃癌 或 ハ 其 他 • 腹 內 臟 器 = 腫 瘍 1 存 在 ヲ 疑フ 餘地 ナ シ 淋 巴腺 腫 脹 ヲ 認 メズへ 粘 障碍 膜

ナ

於 ラ Æ 何等 異 常 ヲ 認 X ズ

上來叙 述 シ タ ïν 旣 往 症及特有ナ

jν

現在

症

,

狀態

3

y

見レ

バ

本患

耆

Ξ

۱ر

假

冷癌

腫

或

肉腫

1

如

き悪性

腫

瘍

發

生

チ

見

ザ

w

Æ

本

病

タ

ıν

7

疑ナ

ケ

>

何

ŀ

ナ

V

ノゲ

Ŀ

述

ノ

如

キ

特異ナ

n

症候

۸.

本病

ヲ

/ 於テ他

皮膚疾患

見ザ

w

處デ

7

n

サ

v

w

時

ガ

最

ノ

ŀ

Æ

特

徵

ŀ

セ

ラ

v

ラ

殆

F\*

他

ス ァ 皮膚 n w 點 ゕ゙゙ デア 色素性乾 病 ۲ jv 鑑 别 然 皮 ス 症 iv w = 要 本患 患者 Æ 7 者 = カ 於 ラ 如 テ 2/ Ŧ ハ 巴二 由來惡 رر E 青年期 = 车 性 齡四 腫 或 瘍 十歲 初 普 年 = 通 達 期 ハ シ 成 普通 頃 年 期  $\exists$ 以後 y ノ狀態 **≥**⁄ ラ 即 是等惡 3 チ ŋ 四 十歳 見 テモ 性 腫瘍 以後 惡性 位 腫 發 = 湯ヲ 生ヲ 發 笙 發生 見 ス ıν w ス æ

ス

w

7

、機會アラン

=

ŀ

ヲ豫期シ

テ

/居リマ

ス

(党)

期デアルノミナラズ幼少ノ頃ヨリ色素性乾皮症 感ゼンガ、 前陳ノ如ク惡性腫瘍ノ發生殊ニ幼年 チ患 ラ頃 3 ヘテ居ル y . خ テ ス = Æ w Æ 力 • 7 ハラズ未ダ此惡性腫瘍ヲ認メザ ۱۷ 本病特異ノ症候ナル モ之無キチ iv 、以テ直 ハ 稍異樣 = 本

w フ 而シラ本病者ハ餘リ本病ノアルコヲ意ニ介セザルト且何等ノ苦痛ヲ感ゼザル爲メ引キ續キ治療ヲ乞ハザ 病ノ非定症候候トハナラヌノデアル w 力 最モ本病ノ治療法トシテハ現今尚未ダ奏效ヲ收ムベ 過ギザル ノデアル、

#

æ

ノナシ、

成ル

可ク

光線

ノ刺戟ヲ避

クル

ŀ Ħ

强壯

剤ヲ

與

w

,

デ

7

後ノ經過ヲ見ル 速ニ之ヲ切除スルナドハ患者ノ壽命ヲシテ長カラシムルニ過ギナイノデアツテ誠ニ遺憾ノ極ミデアル、本患者ノ今 頗ル 興味アル 若シ疣贅狀物ノ増殖ヲ見ルアラ 3 1 ۴ 思ヒマ シテ後日ノ再診ヲ約シ置キタ バ速ニ截除スベキデアル、亦惡性腫瘍發生ノ兆アラ v バ再ビ本患者ノ經過ニ付テ諸君ニ報告